

平成 29 年度第 1 回 高知市口腔保健検討会議事録

高知市保健所 2 階大会議室

H29.9.27 18:30~20:30

1 開会

司会：健康増進課課長補佐

2 高知市保健所長挨拶

3 議事

①高知市の現状について

事務局より説明

質問

【宮川会長】

1 歳 6 か月児健診の前歯でかじりとして食べていますか？とありますが、どういうふう
にイメージしたらいいか。

【健康増進課】

手づかみ食べをイメージしてもらったらいい。歯が上下 4 本ずつ生えてきた段階で、
パンやバナナなどを手でつかんで、前歯を使ってかじってほしいが、最近、食べ物をす
べて一口サイズにして前歯を使わずに食べていることが多いという実態があるため、問
題意識を持っている。

②口腔保健支援センターの取組について

事務局より説明

取組報告について質問はなし

現状と課題について

幼児・学童期の取組について

【宮川会長】

幼児期の今後の具体的な対策として、小児の口腔機能の発達の取組が必要ではないか
ということだが、実際の保育現場等で、いつも口を開けている子がいるとか、食べ方で
困っていることなどはあるか。またモデル園で口の体操等取組んでいくということにつ
いてはどうか。

【中山委員】

自分の保育園では、今のところは、報告は受けていないが、子どもの育ちによっても違うのではないか。モデル園としての取組は全然問題ない。保護者を巻き込むとなると大変かもしれないが、園で取組み、それを家庭に伝えていくということなら可能だと思う。

【宮川会長】

公立の保育園ではどうか。

【保育幼稚園課】

公立の保育園では、歯磨き指導は、4歳児以上については、全園で100%実施できている。保育園でのフッ化物洗口も増えてきているが、公立は、民営の保育園に比べると少ない現状ではあるが、取組んでいる。

様々な取組をやっている中で新たな取組となると、担任の先生等、現場ではちょっとした抵抗があると思う。

モデル園での取組については、大事な部分であるため、取組んでいきたいと思うが、保護者を巻き込むとなると、いろいろと整理しなければならない課題もあるので、難しいという印象もある。

【宮川会長】

高知学園短期大学の実習などで、保育園、幼稚園の現状はどうか。

口の体操の取組を盛り込むのはどうか。大野委員は欠席だが、オブザーバーの先生にお聞きしたい。

【高知学園短期大学 野村先生】

平成29年は、保育園、幼稚園16園で、5歳児を対象に実施している。

最近、口の中がむし歯だらけという子どもはいなくなってきたので、むし歯の本数は減ったり、むし歯になったら治療したりということができていると思う。

しかし、赤く染めだしをすると、汚れが残っている現状はあるため、口呼吸も影響しているのではないかと感じているところはある。

口の体操については、小学校の歯肉炎予防の指導で2時間枠の授業時間を取れる学校では、最初の時間に教員が健康教育をしているが、その中で口の体操の「あいうべ体操」等を取り入れている。児童たちは一生懸命取組んでくれる。5分足らずの体操なので、その日だけではなく、何らかの形で学校のほうで継続して実施してもらえたら効果的に行けるのではないかと思う。

【宮川会長】

実際にモデル園等で取組むとなると地域で活動されている歯科衛生士等の協力も必要だが、どうか。

【植田委員】

歯科衛生士会のほうでも何件か、保育園等の指導に行っているが、その中で、歯磨き指導だけでなくぶくぶくうがいの指導を行っているので、口腔機能向上の話を盛り込んでやっていくことは可能である。

小学校は、今まで依頼がないため関わっていないが、要望があれば、急に何校も対応するのは、仕事をしている会員ばかりなので難しいが、少しずつ指導ができる歯科衛生士の育成もしていきたいと考えているため、勉強させてもらいながら、保育園、幼稚園、学校の指導に、今後取組んでいきたいと思う。

【竹島委員】

学校薬剤師として学校保健委員会に参加すると、学校歯科医師もいるが、そこでの話では、小学校で授業時間の中に指導の時間を作るのは難しいという話になる。

学校の中には、児童クラブがあって、その中で、高知市の禁煙サポーターが受動喫煙の紙芝居を行っている。そういう形で、児童クラブに指導へ行ったらいいのではないかと思う。

また、歯科健診を毎年行っているが、健診のあとのフォローがされているのかが気になる。あとのフォローが大事ではないかと学校保健委員会に参加していつも思っている。

【伊藤委員】

受動喫煙の紙芝居は、うちの小学校の児童クラブにも来てもらっている。

児童クラブでは、夏休み等は、朝から晩まで時間を過ごすため、映画会を行ったり、学校のプール等も開放したりしている。新たな取組として口の体操などを行うとなれば、指導員もぜひお願いしたいとなるのではないか。

もちろん児童クラブだけに任せるのではなく、まずは小学校等でも取組を進める必要があると考える。

養護教諭は世代交代の時期が来ていて、いろいろと課題はある。

歯科の部分でいうと、小学生は医療費が無料になり、環境は整ってきている。受診についての確認や、フォローも必要だと感じている。

フッ化物洗口についても、保幼小連携の会でもあまり歯科の話題は出てきていないので、小学校の校長や養護教諭が、校区内の保育園・幼稚園でフッ化物洗口をしているかどうかは知らないのではないかと思う。

課題意識はどの学校も持っていると思うが、養護教諭は、病気やけがの対応や、最近

は教室に入りづらい子どもの心の相談にも乗っているため、1人の養護教諭が担う部分が多くなっている。そのためなかなかいろいろなことが進みにくい現状である。

しかし、課題はあるので、秋になり、少し忙しさも落ち着き、各養護教諭も学校でできる取組について考えられる時期にはなっていると思う。教育委員会からも勧めてもらおうと、学校として取組やすいと思う。

【中山委員】

うちの保育園では、看護師もいないが、保育士が担当し、フッ化物洗口を行っている。習慣になっているため、子どもが自主的に取組むことができている。

これから何十年先の歯の健康のためにも、子どもたちの将来のためにも、大変だとは思いますが、どうやったらできるのかというところで検討していったらどうかと思う。

一宮地区ではすべての保育園で開始になって、小学校からも問い合わせが来たりもした。保幼小連携のきっかけとしても歯科のことから始めていくというのもいいのではないかと思う。

【宮川会長】

一宮の方では保育園から小学校まで取組が進んでいるが、他のブロックではどうか。

【中山委員】

布師田で開始になっている。

【伊藤委員】

一宮中学校区の小学校全部で、意思統一して取組んでいこうとなった。

【中山委員】

保幼小連携としても、一宮小学校が取組んでいたもので、全部の保育園でやろうという話になった。

今後も園長会等でも啓発していきながら保育園の取組を進めていきたい。

【教育環境支援課】

私も高知学園短期大学の先生と学生さんの小学校の歯みがき指導を見学させてもらった。今年度は29校で対応してもらっている。

歯みがき指導や、その他の取組等も、教育環境支援課が学校のほうへ情報提供し、実施についての働きかけを行っていきたいと考えている。

【宮川会長】

高知市歯科医師会でも、教育現場等で活用できるフッ化物洗口Q&Aを作成しているので、これから実施施設が増えていくための助けになればと思っています。

歯肉炎が増えてきているという報告の中で、口呼吸についての話題も出ていたが、口呼吸について、田岡委員説明をお願いしたい。

【田岡委員】

口で呼吸をするということは、口の中は自浄作用があるが、口で呼吸すると口の中が乾燥し、そのことで前歯に汚れが付きやすくなり、むし歯や歯肉炎、口臭の原因にもなる。

また、子どもの頃の口呼吸で問題になるのが歯並びで、歯は口唇や頬っぺた、舌の圧力の調和が取れる位置で並ぶと言われている。口がいつも開いていると、舌の圧力は強いが、口唇の圧力が働かないため、舌に押されて前歯が出てくるなど、歯並びに影響する。前歯が出てくると、口唇が閉じにくいのでますます口呼吸になるなど悪循環が起こる。

他にも、口が開いている子は、口の周りの筋肉が使われていないので、頬っぺたがたるんできたり、口唇が膨らんだりとか、鼻が上を向くなど、ぼーっとした印象にもなる。

鼻は、天然のマスクと言われていて、鼻で息をすることで加湿機能があり、またフィルターが働くので風邪やインフルエンザ予防にもつながる。

口呼吸は、単に口で呼吸をしているということだけでなく、鼻呼吸ができないことによるいろいろな弊害がある。

【宮川会長】

P T Aの連合会等で口に関することで話題が上がるようなことがあるか。

【前田委員】

あまり、話題に上がることはないが、その場でいろいろPRをしていただけたらいいと思う。

小学校で放送を流し、みんなで一斉にうがいをしたり、歯みがきをしたりすることを促すことは難しいか。

【伊藤委員】

給食の後から昼休みまでの時間は隙間時間になるため、各学校、学年によって現状が違おうと思う。

各校の実態を把握していないけれど、学校によってそれぞれ検討することが必要ではないかと思う。

【宮川委員】

歯みがきについては、今日の資料に実施率が出ているが、数値を見て驚いたことだったが、今年度初めて、四国地区で市単位の歯科医師会の会があり、松山市と、徳島市の先生方と話をする機会があるため、実施の状況について詳しく聞いてくる予定である。

【保育幼稚園課】

公立保育園でもフッ化物洗口に取り組む、これからも推進していく予定である。口の体操の話があったが、フッ化物洗口をするためにもうがいの練習をしてから取り組んでいるが、フッ化物洗口を続けることで、口呼吸や不正咬合等の予防には繋がるのか？口の体操に比べると効果はどうかを聞きたい。

【田岡委員】

フッ化物洗口は、むし歯を抑制するための薬液であり、薬液自体は口呼吸等の予防に効果はないが、口を閉じて1分間うがいをするということは、口唇の力をつけることにつながっていくとは思っているので、関連付けて取り組んでもらうといいと思う。

【健康増進課】

田岡委員の言われたように、うがいをするには、口輪筋を鍛えて口を閉じることに繋がる。

最近、舌を前にべーっと出せない子どもがいるが、食べるためには、口唇が閉じ、舌が自由に動き、しっかり舌が前に出ることが大切である。舌の動きのためには口の体操で補っていくことが必要だが、うがいをすることで、口唇を閉じる力がつき、食べこぼしやよだれの改善にはつながっていくと思う。

成人期の取組について

【宮川会長】

最後に成人期について、現状として何でもかんで食べることができる人、自分の歯が20本以上ある人が全国より少ない、定期的に歯科受診している人の割合もあまり増えていない、また歯周病と全身への影響についても市民の周知度がまだまだだが、歯科医師会としても高知市の医歯薬連携事業の委託を受けて取り組んでいて、今後の取組みとして市民への啓発も検討している。現状について田岡委員から説明をお願いしたい。

【田岡委員】

平成27年度から高知市からの委託を受け、医歯薬連携推進事業を行っている。

初年度は、市民向けの啓発用のポスターの作成や、昨年度は、歯周病と生活習慣病の関連性を啓発するリーフレットの作成や、医歯薬それぞれの会から先生を出し、講演会

を行った。

今年度は、昨年度作成したリーフレットの活用のための解説書の作成や、県外から講師を呼び、特に糖尿病と歯周病の関連性についての講演会を実施する予定である。

今後、市民の方への周知度を上げていくための啓発事業を行っていかれたらと思っているが、まずは、関係者の周知度を上げていけるような取組を行っていきたいと考えている。

【宮川会長】

この医歯薬連携については、山村委員、竹島委員にもご協力をいただいている。啓発リーフレットの感想や、市民向けにはどんな取組をしていったらいいかなどご意見をお聞きしたい。

【山村委員】

医歯薬連携で糖尿病に関する研修会を行ったが、歯周病とそれぞれの病気との関連性を訴えていった状況となった。今まで医師会のほうでは、歯科との関連性についていろいろと訴えていく機会はなかった。テレビ等でも歯周病の怖さについて放送し訴えているため、市民が関心を持っている状況だとは思う。

今の時代は、スマートフォン、アイパッドを持っているため、歯磨き習慣を促すアプリがあれば子ども達が楽しみながら取り組むことができるのではないかと。大人も同じで、楽しく興味をもてるような仕掛けが必要ではないかと思う。

高齢に関しては、いい入れ歯が作れるようになれば、おいしく食事が摂れるのではないかと。入れ歯が合わないという話もよく聞くので、いい入れ歯でおいしく噛んで食べることができることでよりよく過ごすことができるのではないかと思う。

【竹島委員】

歯科健診を受けている人が少ないという話があったが、病院では、いろいろなテーマで健康教育を行っているが、そういったところに参加をしている意識が高い方に、歯科健診や歯周病についての話をしてもらえると、啓発効果が高いのではないかと思う。

高齢者に対しては、いきいき百歳体操、かみかみ百歳体操を行っているので、そういった場で歯周病のことについても啓発していったらいいのではないかと。

集まっている場に出向いて話をすることで効率的に啓発できると思う。

【上原委員】

楽しみながら啓発するということで、制度で決まっている特定健診は、受けたら健康パスポートのシールをもらえるのだが、個人が行く歯の健診ではシールをもらえない。

市民が自主的に行っていることで、すごいことだと思うので、シールがもらえたらいい

いのではないか。特典でも、お得に歯科健診が受けられるなどあるなら、歯科健診をすすめやすくなる。

【宮川会長】

シールを配布するのは歯科医院等で可能なのか。

【健康増進課】

健康パスポートは、後期高齢者健診や、妊婦歯科健診ではシールを配布している。日頃の健診をシールの対象にするかどうかは、県に申請をしてもらって県の方での判断になる。楽しみながら、取り組んでいくということでは1つの案としていいことではないかと思う。

【宮川会長】

参考にさせていただき、歯科医師会のほうで検討していきたいと思う。

いきいき健康チャレンジのイベントにいろいろな団体が協力していて、歯科医師会も参加をさせてもらっているが、どんな感じだったか、説明をお願いしたい。

【健康増進課】

いきいき健康チャレンジは、生活習慣の改善や健康づくりの取組をチャレンジ目標として1つ決めて、3か月実践をして記録をするという取組である。昨年度から開始して、昨年度は522名の参加で、今年度は1400名ほどの申込みとなっている。

この取組の特典の1つとして、対象の方には、健康情報の提供や、スタートイベントや応援講座、結果報告会の時に健康相談の機会がある。歯科の分野では、先日のスタートイベントでも、高知市歯科医師会、高知県歯科衛生士会に相談業務を担ってもらった。

高知市の健康課題の1つとして、早食いから肥満になり、生活習慣病への影響があるということがわかってきて、昨年度、高知市歯科医師会の先生に噛むことの講演をお願いした。アンケートの反応がよく、「噛むことの大切さについては知っていたけれど、話を聞くことでさらに気を付けようと思った」とか「噛むことが健康につながるということがわかった」という意見があった。多くの方がいい反応であった。

先日のスタートイベントのアンケートでも、「口のことについて気が付いてなかったことがわかりよかった」という意見もあり、なかなか話を聞く機会があるようでない歯のことについて、学ぶ機会になっている。リーフレットを活用してもらったが、これも好評であった。これからも生活習慣病対策として連携しながら一緒に取り組んでいきたい。

【宮川会長】

早食いの話がでたが、保健指導の中で早食いについて指導する機会はあるか。

【上原委員】

特定保健指導で事業所を回っているが、早食いからのメタボは多いので、30回噛むとか、一口食べたらお箸を置くなどの指導をしている。

最近思うのが、大人になってから早食いを意識するのではなく、子どものころからの習慣になるので、給食がとても大事で、養護教諭の手も回らないという話もあったが、小学校の給食の中で、担任の先生と一緒に食べていると思うので、ゆっくりよく噛んで食べるという促しとか、噛む回数が多くなる献立を取り入れるなどの取組があってもいいのではないかな。

歯科治療についても担任の先生から、声かけがあったらいいのではないかなと思う。

【植田委員】

いきいき健康チャレンジのイベントに歯科衛生士会も参加させてもらっていて、口臭チェック等の測定をやらせてもらったが、口臭チェックは嫌がる方が多いかなと思ったがすごく反応がよく並んで待ってでも測定してくれ、口の中への関心が高いということを感じた。また、歯科関係の情報を知りたいという市民の方が多いということも今日の話聞いてわかった。そこで、いきいき健康チャレンジのチャレンジ項目の中に、歯科の項目が今までなかったのだから、次に企画を立てるときに入れていただくのはどうか。

例えば、「歯磨き」というより「しっかり噛む」などの項目を新たにいただけたら、私たちもアピールしやすく啓発にもつながると思うので、ご検討をお願いしたい。

【前田委員】

自分の子どもが小学校6年生で、歯科治療に行ったのだが、待っている間に、低学年の小学生が1人で来ていたが、お父さん、お母さんが来ていないか？と聞かれていた。歯医者は子ども1人でいったらいけないものなのか教えてほしい。

【宮川会長】

歯科医師の考えにもよるとは思うが、通院としては1人でも大丈夫だとは思いますが、歯を抜くなどの不可逆的な処置をする時などは、保護者と連絡を取ることが必要な場合があると思う。

閉 会

事務局より連絡事項

第2回検討会は2月か3月に実施予定